

ヘンリー・フィールディングの小説

——『トム・ジョーンズ』の本質（Ⅳ－3）——

児玉啓介

1. はじめに

今回の論文は『トム・ジョーンズ』の第10巻から第14巻までを例証するが、第10巻は9章から、第11巻は10章から、第12巻は14章から、第13巻は12章から、第14巻は10章から成り、合計55章から成り立っている。

今回登場する主な人物は10人で、トム・ジョーンズは55章中38章に登場し、ソフィアは24章に、フィッツパトリックは6章に、パートリッジは25章に、フィッツパトリック夫人は17章に、オールワージー氏は8章に、ブリフィルは2章に、ウェスタン氏とウェスタン夫人は7章に、ベラストン夫人は9章に、ナンシー嬢は8章に登場する。

今回例証したところには、『トム・ジョーンズ』のストーリーの展開と直接関係のない部分がある。それは第12章のジプシーの宴会であり、そこでのジプシー王の語りと持て成しであり、最も善良な独裁者が最大多数の国民に与える幸福についてである。今回はこれらについての論評をやめて、次回最終回の論文で言及したいと思っている。

2. 登場人物とその人となり

(1)トム・ジョーンズ

(a)ソフィアとオナー夫人が話している場面で、ソフィアはジョーンズが他の女と一緒にいると聞いて震えて真っ青になる。これに対してオナー夫人はソフィアを慰めて、あんな価値のない奴のことをこれ以上考えないように願う。「彼は裏切り者で哀れな奴です」とオナー夫人。「彼は悪漢であるだけでなく、程度の低い軽蔑すべき哀れな奴です」とソフィア（10－5）。

(b)ソフィアが寝ていたベットに彼女のマフがあるのをパートリッジが気づいてジョーンズが興奮する場面で作者は述べる。

この時のジョーンズの振舞い、彼の考え、彼の顔つき、彼の言葉、彼の行為はすべて乞食に似たものであった。パートリッジに苦々しい呪いの言葉を吐いて、彼に下へ降りて行って馬を借りるように命令した（10－6）。

(c)この章の出だしで作者は述べる。

私たちの物語は折り返して後もどりの旅をする前に、ソフィアと女中の宿屋からの出発について述べる。今あの美しい女性の足どりをたどり、彼女の価値のない恋人を少し長く置き去りにして、自分の不運、いやむしろ不行跡を嘆き悲しむにまかせることにする（11－2）。

(d) ジョーンズがロンドンのある宿屋にフィッツパトリック夫人を訪ねたあとの描写。

ジョーンズは人工的ではなくて、生まれながら育ちのよさを持っていた。従って彼の宿屋の秘密を召使いに伝える代りに、夫人に特に伝えて、その後すぐ儀式ばって引き下がって行った(11-4)。

(e) ジョーンズがフィッツパトリック夫人と別れて落ちこんでいた時、階下で大騒動が起る。この時、

ジョーンズはどんな時でも困っている人を助けるのに決してうしろ向きではなかったのも、すぐ階下に走って行って、食堂にはいってみたら、知恵と美德の若い紳士が召使いによって壁に押しつけられていた。だから飛んで行って敵の手から助けてやった(11-5)。

(f) 上記と同じ場面でのジョーンズの動作。

私たちの主人公は一流のボクサーにも匹敵するほどのすばやさで力強さがあった(11-5)。

(g) ミラー夫人とナンシー嬢が芝居から帰って来て、みんなが集まって愉快的な一夜を過ごした。

というのはジョーンズを除いて皆心から楽しくしていたし、彼さえもできるだけ楽しく装っていたから。実際、彼の気質の優しさに加えて、動物的元気の自然の流れの半分でさえ、愉快的仲間を作るに十分であったし、彼の心の重さにもかかわらず、現在の状況で自分自身を非常に快活にしたので、みんながそれぞれ引き上げて行った時でも、彼はナンシー嬢ともっと知り合いになりたいと願った(11-5)。

(h) ジョーンズがフィッツパトリック夫人、ミラー夫人、ナンシー嬢と話をしている場面では述べる。

彼の気質は生まれながらに希望にみちていたので、この機会を楽しみ、彼の想像力はその晩彼の愛しいソフィアに会うことを期待して沢山の自惚れを作り上げた。

読者よ、もし汝が私に対して何かよい希望を持っているなら、汝がこの希望にみちた心を持つことを私は望む。というのは沢山の偉大なペンを使って来た幸福の主題を沢山読み長い間考えた後、この(ジョーンズが持っている)気質の中に幸福を取り入れたい気がしているのである。(11-6)。

(i) ソフィアとベラストン夫人が話している場面でソフィアが言う。

「私は彼(ジョーンズ)のしたことを疑うことはできません。更に、もしあなたが彼を観察するなら、彼の言葉使いには上品さ、優雅さ、表現の美しさがあります」と(11-7)。

(j) ジョーンズの性格について作者は述べる。

事実、可哀そうにジョーンズは最高に気立てのよい男で、同情と呼ばれこの不完全な性格とあの心の気高い堅固さとを区別する弱さをすべて持っていた。心の堅固さとは人を、言わば、彼自身の中で転がし、他人に起る災難によって一度も止められないで、磨いた腕のように世間を走らせる堅固さだった(14-6)。

(2) ソフィア

(a) オナー夫人と一緒にある宿屋に泊まっていた時の

ソフィアの性格は百合のように白い性格であった(10-5)。

(b) ソフィアが一晩すごしたアップトンの宿屋では
チャーミングなソフィアの美しさと愛らしい振舞がサマーセットシアのエンゼルの名前で今日までうわさになっている (10-7)。

(c) 女性の勇気、勇敢さ、優しさ、上品さについて作者が述べているところで、
ソフィアは女性が持つことのできる優しさすべては勿論のこと、女性が持つべき気力 (spirit) をすべて持っていた (10-9)。

(d) ソフィアとオナーとガイドがロンドンへ行く道の宿屋から200歩ぐらい行った時、
ソフィアがガイドに近づいて、プラトンの声よりも蜂蜜にみちた声でブリストルへ行く最初の曲り角で曲がるように頼んだ (10-9)。

(e) フィッツパトリック夫人とオナー夫人の前に現われた時の
ソフィアはこの瞬間ほど美しく見えたことはなかつただろう。従って宿屋の女中が二階からおりて来て、一体全体地上に天使がいるとすれば、今二階にいると断言したのだが、彼女の誇張表現を私達は非難すべきではない (11-3)。

(f) ソフィアがフィッツパトリック夫人に自分はロンドンに行くと言った時、夫人も一緒に行くことに同意した。すぐ出かけることにしたが、外は月がこうこうと照っているし、霜までおりていた。しかし

ソフィアは若いレディが夜に旅行をする時感じる心配は全然していなかった。というのは彼女はある程度生まれつきの勇気を持っていたし、彼女の現在の感情は幾分がっかりしたところがあったのだが、生まれつきのために逆に勇気がわいていた。更に月あかりで、無事に2度も旅行をしていたので、3度目はもっと大胆になっていた (11-3)。

(g) フィッツパトリック夫人がソフィアと話をしている時、夫人が言う。

「ああ、私の可愛いソフィーちゃん、あなたはセンスのある女性です。万一ある男性と結婚するなら、あなたより少い能力について、結婚前に彼の気質についてたびたび試してみなさい。そして彼がそのようなすぐれた点に従うのに我慢できるかどうか見てみなさい」と (11-7)。

(h) 上記と同じ場面で、

ソフィアは均整のとれた美人ではなくて、気持ちのいい、きわめて上品な女性であった (11-7)。

(3) フィッツパトリック氏

(a) アプトンのある宿屋をあとにしたウォーター夫人は道中でフィッツパトリックに言い含められて、彼の奥さんがいないことを幸いに彼を慰めるためにできるだけのことをするが、その時の

フィッツパトリック氏は非常にハンサムな男であった (10-7)。

(b) フィッツパトリック夫人がソフィアに思い出話をしている場面で夫について言う。

「どんな生活状態にあっても、自分を支え慰めてくれる快活で気立てのよい友を持つ女はしあわせであるが、私自身のみじめさを悪くするためにだけしあわせな状況を私はなぜ思い出すのでしょうか。私の友 (夫) は孤独の陰鬱さを取りはらうどころか、私がどんな場所でどんな状態で彼と一緒にいても私は哀れだったに違いないと言いました。一言で言うと、彼は意地の

悪い男で、恐らくあなたが見たことのない性格の男です。というのはどんな女性も父親、兄弟、夫以外にそんな例は見ないし、あなたにはお父さんがいるけど、あんな性格ではないから。こんな意地の悪い男が以前は私には全く逆に見えたし、今でもいろんな人にとってはそう見えている」と(11-5)。

(c)上記と同じ場面で

「男が外に出て仲間という時、絶えず嘘を言うことができるのはどうしてか。家にいる時だけ不愉快な真実を表すことに満足できるのはどうしてか。主人はどんな時でも仲間という陽気で愉快で上機嫌になればなるほど、私と二人だけにいるとますます不機嫌で不愉快になる。彼の野蛮をどのように表現すればよいのか。私の優しさに対して彼は冷たい鈍感である。私がちょっとこっけいなことをすると、人は大変愉快だというけど彼は軽蔑する。私が一番真面目な瞬間でも、彼は歌を歌ったり、口笛を吹いたりするし、私が全く落ちこんでみじめな時はいつでも、彼は怒るし私の悪口を言う。というのは彼は私の上機嫌に決して満足しないし、私が彼に満足しているせいにもしないけれど、私の不機嫌がいつも彼を不機嫌にするし、私の不機嫌を私がアイルランド人と結婚したことを後悔しているそのせいにする」と(11-5)。

(d)上記と同じ場面で

「私は夫に対して軽蔑をいただいているけど、このごろわかったけど彼は全くバカなのよ」と(11-5)。

(4)パートリッジ

(a)パートリッジが泊っていた宿屋でオーナー夫人にたのまれてジョーンズの秘密をしゃべった時のパートリッジの描写。

自然の女神が飲み物の貯蔵所のために設計したパートリッジの頭のその部分は非常に浅かったので、少量のアルコールがそこからあふれ出して彼の心の水門をあけてしまった。その結果そこに貯蔵してあった秘密が全部流れ出した。その水門は当然あまり安全ではなかった。彼の性質に対して私たちにできる一番気立てのよい言い回しをすれば、彼は非常に正直な男であった。というのは彼は人間の中で一番詮索ずきの男であったし、人の秘密を永遠にほじくったので、彼の知っている範囲内でいろんなことを忠実に話した(10-5)。

(b)ジョーンズとパートリッジが宿屋を出る前の場面でパートリッジについて作者は述べる。パートリッジは大変ずるい男であった(12-9)。

(c)ジョーンズがパートリッジに郷里に帰るように言った時、パートリッジにはいろいろな悪徳はあっても心の意地悪とか冷たさはなかったが、(帰りたくなかったので)わっと泣き出した(13-6)。

(5)フィッツパトリック夫人

(a)作者の描写

彼女は実際非常にきれいな女で、ソフィアに同伴していなかったから、美人だと考えられたかも知れないが、オーナー夫人がわがヒロインに自発的に付添って装いをすませた時、フィッツパトリック夫人は明の明星の役割を演じ、大きな栄光に輝いていたのだが、夫人の魅力はあの星と運命を共にし、(ソフィアの)あの栄光が輝いた瞬間、魅力は全く奪われてしまった

(11-3)。

(b)上記と同じ場面で

彼女の性質は憶病であった。大きな恐怖が小さな恐怖を征服して、夫の存在がアップトンから時ならぬ1時間の間追い出したが、夫の追跡から無事逃られる場所に来たので恐怖心は小さくなっていた(11-3)。

(6)オールワージー氏

(a)弁護士のドウリングがオールワージー郷士について言う。

「私は彼に会う幸運に一度も恵まれていませんが、世間の人は皆彼の善良さをうわさしています」と(12-10)。

(b)弁護士のドウリングとジョーンズが話をしている場面でジョーンズは言う。

「私はオールワージー氏の親戚ではありません。もし世間の人々が彼の美德に本当の価値をおくことができないで、彼の私に対する振舞いにおいて、彼が親戚によって(私を)ひどく扱ったと考えれば、世間は人間の中で一番善良な人を不当に扱っていると私は断言します」と(12-10)。

(7)ブリフィル

(a)弁護士のドウリングとジョーンズが飲みながらしゃべっていた時ドウリングがブリフィルをほめたのに対してジョーンズが言う。

「そんなに短いつき合いの中でブリフィルがあなたをだますのは不思議ではありません。というのは彼は悪魔自身のずるさを持っているので、あなたは彼を見ぬかないで、何年も彼と生活しているのかも知れません。私は子供の頃から彼と一緒に育てられて、ほとんどばらばらになったことはありませんでしたが、彼の中にある悪党を半分発見したのはごく最近です。私は彼を決して好きになれなかったと白状します。人間性の中の偉大で高貴であるすべての確かな基礎である精神のあの寛大さを彼は望んでいるのだと思っていました。私は昔彼の中に利己的なものを見ましたし、それを軽蔑していましたが、彼には最も卑劣で腹黒い計略ができるのだとわかったのはごくごく最近です。というのは彼は私の率直な気質につけこんで、一連の悪い策略によって私を破滅させるために最も深い問題に手をつけて、ついに目的を果たしたということを私はついに見やぶったのです」と(12-10)。

(8)ウェスタン氏とウェスタン夫人(ウェスタン氏の妹)

(a)兄妹についての作者の描写

兄と妹が大抵の実例において反対である以上にどんな二つのものもお互いに反対になることはできなかった。特に次の点では違っていた。即ち、兄は遠くにあるどんなものも決して予見しなかったが、あらゆることが起った瞬間すぐ見るのに最も賢明であった。これに対して妹は遠くを永遠に予見はするが、眼の前のものにはそれほど目ざとくなかった。これらの両方について読者は観察したかも知れない。即ち、実際に二人のいろいろな才能は極端であった。というのは妹は決して起らないことをしばしば予見したのに対して、兄は実際に真実である以上のものを沢山しばしば見たからである(10-8)。

(9)ベラストン夫人

(a)作者の描写

激しい感情がその暴政を行ない、上品さが規定する領域を越えてかり立てる階級の女性もいる。このような夫人は上品な勇敢さと評判の優越した軽蔑によって、程度の低いもろい女性から区別されるようにである。ベラストン夫人はこの勇敢な性格を持っていたが、これが上流階級の女性の一般的な行為であり、私たちが上流夫人をベラストン夫人のように表わそうとしているということを田舎の読者に結論づけさせてはいけない(14-1)。

(10)ナンシー嬢

(a)ナイティンゲールとジョーンズの会話の中でジョーンズがナンシー嬢について言う。

「彼女は自身の中に財産があります。非常に美しく、非常に上品で、非常に気立てが優しく、非常によく教育されています。彼女は実際に完成された淑女で、歌は感嘆するぐらい上手に歌うし、ハープシコードを弾く非常に優美な手を持っています」と(14-8)。

3. 主要な語とコンテクスト

(1)善良な, よい (good)

(a)フィールドینگが作家と批評家の違いを述べる章で、批評家に次のように呼びかける。

「私の善良な爬虫類よ、私たちが汝にしたいもうひとつの警告はここで紹介されるある登場人物間のあまりにも近い類似性を汝は発見していないということである」(10-1)。

(b)上記と同じ章で作者は言う。

「これらの特徴(あらゆる職業をもつ大抵の個人が一致する特徴)を維持できると同時にその働きに変化を与えることがよい作家のひとつの才能である」と(10-1)。

(c)ある宿屋での騒動のあとおかみさんが言う。

「正直で善良な紳士以外に誰も私の家では歓迎しません。好運 (good luck) に感謝しています」と(10-2)。

(d)ある宿屋での騒動のあと作者は述べる。

よい女優になれるものは恐らく一万人に一人もいないし、同じ人物を同等に演じることのできるものを二人と見ることはできないが、美德については見事に演じることができるし、美德を備えているものも備えていないものもみんな最高度の完璧にまで美德を演じることができる(10-2)。

(e)上記と同じ宿屋の台所で

馬丁がおかみさんの美点 (goodness) をほめちぎると、次には行って来た馬丁も「彼女は本当によいレディーだ、たしかに」と言う(10-3)。

(f)上記と同じ宿屋の一室でトミー (ジョーンズ) のことを考えていた

ソフィアの心は彼女の顔が美しいのと同じように善良で無邪気な心をしてベットに横になっていた(10-5)。

(g)ソフィアが家出をして

落合う約束の町に来るのが善良なオーナー夫人であった(10-9)。

(h)ソフィアとオナーはロンドンに行く途中、ソフィアの父が彼女に追いつくのを恐れて、ロンドンとは反対の道を二人は行くことになった。その時

ホワイトフィールド夫人（宿屋のお上）は育ちのよさから（可哀そうにその若いレディーはずいぶん疲れているように見えたので）今夜はソフィアがグロスターにとどまるように心から引きとめたのだが（10-9）。

(i)オナー夫人とソフィアが泊まっている宿屋で騒動が起るが、その時夫人がソフィアについて言う。

「彼女はサマーセットシアのどんなものにも劣らない立派な流儀、家族、財産をもっている若いレディーです」と（11-8）。

(j)上記と同じ宿屋にフィッツパトリック夫人の貴族がやって来て彼と話している場面で夫人は言う。

「さいわいに（good fortune）最も驚くべき方法で（夫から）逃れることができ、今この若いレディーと一緒にロンドンへ行くところです」と（11-8）。

(k)上記の宿屋を旅の一行が出る場面で作者は述べる。

私達はこの善良な人々（即ち宿屋の主人とお上）に別れを告げて一同につきあうことにする。彼らはすばらしい旅をしたので、2日で90マイルの旅をして、2日目の夕方ロンドンに着いた。道中ここに述べるような冒険には出会わなかった（11-9）。

(l)上記と同じ章で

よい作家というものは気のきいた旅行者を实によく真似るものである。というのは旅行者は自分の滞在をよく考えて旅から受けるいろいろ美しいもの、上品なもの、好奇心を呼び起すものに合わせるからである（11-9）。

(m)ウェスタン氏、サプル牧師、宿屋の主人が飲んで寝たあと

その善良な郷土は夜を振り払い、朝の一杯を請求し、娘を追いかけるために馬の準備をするように言うとする、サプル氏は郷土に追いかけるのをやめて、郷里サマーセットシアに帰るよう説得して彼もそれに応じた（12-2）。

(n)ジョーンズとパートリッジの会話の中でパートリッジが言う。

「これから先何年もたって、善良なキリスト教徒のように、泣き悲しむ友人たちに見とられて、ベットの中で死ぬことと、狂犬のように、あるいは剣で20にも切り刻まれて、また自分の罪をすべて悔い改める前に、今日か明日銃で撃たれて死ぬことには大きな相違がある」と（12-3）。

(p)ジョーンズとパートリッジが歩いていて、次の十字路に来た時、ぼろを着た足の悪い男が物乞いをしたのに対してパートリッジは激しくののしる。これに対してジョーンズはのみすばらしい男に1シリングを与える。その時男が叫ぶ。

「あなたさまは大変善良なお方で、このような貧乏人に対して大変親切ですので、人がただ貧しいからといって人を泥棒あつかいにはなさないでしょう」と（12-4）。

(q)上記と同じ場面のみすばらしい男がもっと金をくれるようにジョーンズにねだる。

「あなたさまは善人に見えますし、私の正直をどうぞお考え下さい。というのはそのポケッ

トブックの中の金を全部私のものにしたかも知れませんが（私ほど）賢いものはおりませんから」と（12-4）。

(r) ジョーンズとパートリッジが立ち寄った宿屋に人形芝居の一行がいて、その芝居の親方が芝居の良さを宣伝する。

「なぜ教育的でよい教訓がこのように（人形芝居のように）伝えられないのか」と（12-5）。

(s) ジョーンズとパートリッジが立ち寄った宿屋のお上もこの人形芝居は召使いに怠けと馬鹿げたことを教えるだけだと立腹して言う。

「昔の人形芝居はジェフタの『軽率な誓い』のようによい聖書物語でできていた。あんなよい物でできていたし、いつ悪者が悪魔につれ去られるかわかっていた」と（12-6）。

(t) 上記と同じ場面で

宿屋にいるのは皆善良な一行であると作者は述べ、「気がい以外に誰も夜のこんな時間に田舎をうろつくためにこんなよい宿屋を出ることは考えなかつただろう」と宿屋の主人は言い、「私は彼（ジョーンズ）と同じように善良な男であると信じる」と同宿していた収税史は言う（12-7）。

旅をしている者も皆善人、宿屋もよい宿屋でよいことづくめである。

(u) ソフィアが通りすぎた場所にジョーンズとパートリッジが来た時、パートリッジがジョーンズを納得させて言う。

「結局、あなたはうまく行きます（good success）（ソフィアに会えます）。というのは二つのこんな事件が起ってあなたに恋人を追いかけさせるようなことはなかつたでしょう。もし神が最後に二人を一緒にめぐりあわせる意図がなかつたならば」と（12-8）。（二つのこんな事件とは人形使いの親方と人形使いが喧嘩をしたことと、人形使いがジョーンズをソフィアが通った場所に連れて来たこと）

(v) ジョーンズのアップトンでの振舞いについて作者が論評した理由。

賢明で善良な人々はアップトンでのジョーンズの事件を女性に関する彼の邪悪さに対する正しい処罰と見るかも知れないから（12-8）。

(w) ジョーンズとパートリッジと案内の少年が道に迷った時のパートリッジの話。

「私たちが出かける時、宿屋の入口に立っていた老婆にあなたは気づきませんでしたか。あれは魔女ではなかつたか。私のポケットに半ペンスあれば、彼女にプレゼントしたのだが。というのは何が起るかわからないし、恐いので、あんな人には金をめぐむのがいつもよいことだし、半ペニーを惜しんで牛を失った人が沢山いるから」（12-11）。

(x) ジョーンズとパートリッジと案内人があがりこんだジプシーの祝宴の席での王の話。

「私が部下たちの善意（good-will）にどれだけ価値するかわからないが、これだけは言える。私は彼らによいことをする以外に何も考えていない。私はそれを自慢はしない、というのは私はこの貧しい人たちのため（good）を思うだけでほかに何ができるか、彼らは終日出かけて行って手に入れたものの中で一番よいもの（best）をいつも私にくれるからです」（12-12）。

ジプシー王の言葉は原文では俗語か方言である。例えば I を Me, their を deir, this を dis, them を dem, shall を sall, that を dat, neither を neider, otherwise を oderwise,

the を de, those を dose などと言う。

(y) ジョーンズとパートリッジがコヴェントリーへ旅をしている途中、立ち寄った鍛冶屋で二人の話がはずむが、

パートリッジのちょっとした言葉にジョーンズが気分を害したためにパートリッジが謝る。これを受けてジョーンズも自分自身を厳しく非難する、とはいっても彼がわが善良な読者の多くによって非難される半分も厳しくはなかったのだか (12-13)。

(z) ジョーンズがロンドンに滞在した時泊っていた家で、ジョーンズがある人から仮装舞踏会の招待券をもらったので、そこの奥さんと娘さんにプレゼントするというが、

その善良な夫人は受け取ろうとしないし、「自分の娘は善良な小売商と結婚することを希望している」と夫人は言うし、その場にいたナイティンゲール氏に「あなたのような寛大な考え方をもった紳士を娘が見つければ幸運 (good luck) だと言うし、「ナンシーはあまりにいい子 (善良な女の子) だから行かないし」と言う。そしてこの善良な婦人は優しさそのものであったと作者は述べる (13-6)。

このパラグラフはすべて「善」が出てくるところである。

(aa) ジョーンズが仮装舞踏会で知り合った女性はフィッツパトリック夫人であると知って次のような呼びかける。

「私の善良なフェアリー・クィーンよ、私はあなたさまを大変よく存じております。声を偽ったふりをしても」 (13-7)。

これに対して夫人も呼びかける。

「善良なあなた、あなた方二人のことを助ける以上に従妹に対して私が大きな尊敬の念を持っていないと思いますか」 (13-7)。

(bb) この章の出だしの文でジョーンズとミラー夫人について作者は述べる。

ジョーンズはこの日病人にとってはかなりよい夕食、即ちマトンの肩の半分以上を食べた。午後ミラー夫人からお茶の招待を受けた。というのはその善良な婦人はジョーンズとオールワージー氏との関係を知ったので、怒ったままで彼と別れることに耐えられなかったからである (14-5)。

(cc) ナイティンゲールと叔父がみんなの所に帰って来た場面で作者は述べる。

善良な一同がまた集まった時、みんなの顔には目に見える変化があったし、二人が出て行く前はどの顔にも輝いていた上機嫌 (good-humour) が今は変ってあまり好ましくない一面になっていた (14-10)。

以上29の項目で“good”とそのコンテクストを見て来たが、原文を再度読んで各用例を検討してみた。

まず形容詞の“good”が修飾する人を表わす名刺は全部で26語。この中で good woman が7例、good companyが5例、good man, good ladyがそれぞれ3例、good family が2例、固有名詞を修飾する例は Squire Allworthly と Mrs.Honour のそれぞれ1例ずつ。

次に形容詞“good”が修飾する人以外を表わす名詞 (例えば sense など) は全部で32語。この中で good sense, good humour がそれぞれ4例ずつ、good luck が3例、good fortune

が2例、32語をそれぞれ検討してみると、どの語もすべて直接、間接、人間に関係のある名詞ばかり（例えばheart, nature, health, breeding, house, room, candle, dinner）である。

3番目に名詞の goodness の例が14例、名詞の goodが5例、形容詞の best の例が4例。最後に good nature, good-nature, a good-natured fellowがそれぞれ1例ずつ。

以上の例から推測すると、作者フィールディングはいつも「善」の志向があると言えるし、“good”の反対語の“bad”とか“evil”の例はあまり見あたらない。というよりは“bad”とか“evil”で表現するような人物とか場面を想定しないし設定しないと言えるようである。

(2) ころ (mind)

(a) 登場人物に関する章で作者は述べる。

どんな新しい作品の中でも天使のように完璧な人物や極悪非道の墮落した人物を登場させることによって役立つよい目的を私は考えているのではない。というのはいずれかの性質を考えると、人間の心はそのような原型から何かよい役立つものを引き出すことよりも悲しみと恥ずかしさに圧倒されるようであるから (10-1)。

(b) 上記と同じ章で

実際、もし気立てのよい心の賞賛と愛情を約束する人物の中に十分善良さがあるならば、たとえ小さな欠点が見えても、その欠点は私たちの憎しみよりむしろ同情を呼び起こすだろう (10-1)。

(c) 上記と同じ章で

実に、こういう種類の実例の中に見られるいろいろ不完全なものほど道徳的に役立つものはない、というのはこのような実例は一種の驚きを作り、邪悪で悪意のある人の欠点よりむしろ私たちの心に影響を与え、心に住むものであるから (10-1)。

(d) ウォーターズ夫人が泊まっていた隣の部屋にはアイルランド人の伊達男がたまたまベッドでベーン夫人の小説を読んでいた。

というのは彼は自分の理解力を高め、よい文学で自分の心を満たすこと以上に淑女たちへ自分自身を推奨する効果的方法は見つからないと、ある友人に教えられていたからである (10-2)。

(e) ウェスタン家でウェスタン夫人がウェスタン氏に「あなたはいつもくだらないことにかつとなるからですよ」と言ったのに対して、彼は言う。

「ソフィアが見つからないとあいつ（私の甥）が言った時、私の心に疑いが起ったんだよ」と (10-8)。

(f) ソフィアとオナーが立寄った宿屋のお上がジョーンズについて述べる。

この事件がソフィアの心の中でその後よみがえり、オナーによって最もいやな色にそめられたが、アップトンでの不運な出来事に対する信用を高め、信用を与えるのに役立った (10-9)。

(g) ソフィアとフィッツパトリック夫人の一行がある宿屋に着いた時、主人がソフィアをだきかかえるのだが、主人が痛風を患っていたためにソフィアと一緒に倒れてしまう。

この恐れとショックがソフィアの心と体の激しい疲労と共に、彼女のすぐれた体格を圧倒したので、ソフィアは女中の腕にもたれてやっとこのことで宿屋の中へは行って行った (11-2)。

(h)ソフィアが宿屋で一眠りしたあとの様子。

彼女がアップトンを出た時は完全にゆったりしていたが、彼女の心は熱病の兆候を伴い、心(spirits)の病といわれる正にあのディステンパーという病気に少しかかっていたのは確かである(11-3)。

(i)ウェスタン氏、サプル牧師、宿屋の主人がハンティングをしたあと夕方一緒に飲んでいる場面。

わが郷土はその晩宿屋の主人ともサプル牧師とも対等には飲めなかった。というのは昼間のハンティングで体も心もものすごく疲れていたからである(12-2)。

(j)ジョーンズとパートリッジはアップトンの宿屋を出てから沈黙していた。しかし途中でパートリッジがジョーンズに郷里へ帰るのをすすめたことから、ジョーンズは気分を害してまた沈黙して道路を歩いていたが、ジョーンズが気分を変えたので、

パートリッジの心の中で2番目に最高の話題、即ち丘の男の話をはじめた(12-3)。

(k)ジョーンズとパートリッジが旅をつづけていると、ドラムの音が聞こえた。パートリッジは恐怖心を抱いたが、

ジョーンズの心には優しい考えがあって、恐怖心はなかった(12-5)。

(l)アップトンの宿屋を出る時のオーナーの心、ジョーンズがソフィアに会えなかった時の原因である軽率な行動、それによる微妙な心を作者は述べる。

オーナーはソフィアが彼女のジョーンズに会わずにアップトンを去るように決して説得できなかったと私は信じる。もし彼の振舞いの中に軽率なあの二つの例がなかったならば。というのは彼の振舞いは尊敬できるものではないし、大きな微妙な心(minds)の中の愛と優しさのどんな程度とも極めて矛盾するものだからである(12-8)。

(m)財産についてのジョーンズの考え方。

「私はごくわずかなものに満足したし、私はオールワージー氏の財産について決して考えなかったし、彼が私に何をすることができるか恐らく何をするか一度も考えたことはないと本当に言える。このことだけは厳粛に断言する。もし彼が私のためを思って彼の甥に偏見をいただいていたら、私がまたそれを取消しただろう。私は人の財産よりも自分自身の心を楽しむ。寛大で有徳で高貴で慈悲深い行動を考えて善良な心^心が楽しむあの温いゆるぎない満足、どんどん満たされる気分、わくわくする喜び、高まる勝利感に比べて、壮大な家、すばらしい馬車、光り輝くテーブル、その他財産の利益や外見から生じるあのみじめな誇りは何か」(12-10)。

(n)ジョーンズとパートリッジと案内人がコヴェントリーへ向う道路での状況について作者は述べる。

あのような状況(暗やみ、雨、風)にいたことのない読者にとって、夜道を迷った人々を襲う恐怖、その結果、荒れた天候と闘いながら心を支えるための温い火、乾いた衣服、その他食物の楽しい見通しを持たない人々を襲う恐怖を想像することは容易ではないだろう(12-11)。

(o)ベラストン夫人に初めて嘘をついたソフィアについて作者は述べる。

彼女の心は偽りのこの最初の行為のもとで完全に落ちついていなかった。これについて自分の部屋に退いた時も、最高の不安と意識的恥を感じながら反省した。また彼女の立場の独特の

困難さと、この場合の必要性が彼女の心と行為を決して和解させなかった。というのは彼女の心は事情はいろいろあっても、虚偽の罰を犯したことの考えに耐えるにはあまりに優しくかったからである。そしてまたこの考えがその晩ずっと彼女の眼を閉じることを一度も許さなかったからである (13-12)。

(p) ナイティンゲールと叔父が席をはずしていた場面。

叔父と甥の長い不在はあとに残された人々全部の心の中にある程度の不安を引き起こした (14-10)。

以上心 (mind, minds) について見て来たが、「心」という語が使われているコンテキストをよく見ると、以下の4通りに分類できる。

まず、「私の心」「彼の心」「彼女の心」「私たちの心」「彼らの心」というように登場人物の個人の心、あるいは複数の人の心についての描写。

次に、心を修飾する形容詞はよい意味では「偉大な」「微妙な」「正直な」「善良な」「希望に満ちた」など。悪い意味では「陰気な」「悪魔的な」「邪悪な」「乱れた」など。

3番目に、「心の性質」「心の存在」(平静)「心の情況」「心の堅固さ」「心の気高さ」のような心の中の描写。

最後に「心と体」という「心」だけでなく「体」も意識した表現があり、体 “body” でなく “person” とする表現もある。

私たちの思考や行為はまず「心」から出発して、瞬間的あるいは永続的に具体的な物や事に形成される。人間に関するもの、即ち人工的なもので、人間の心に関係しないものは何もない。だから上記の各例はフィールディングの心の描写であり、同時に私の心の描写である。

(3) ところ (heart)

(a) フィールディングが作家と批評家の違いを述べる章で批評家に次のように呼びかける。

「私の価値ある友人よ、汝に警告しなければならない。(というのは恐らく汝の心は汝の頭よりよいかも知れないから) 登場人物が完全によい人物ではないからと言って悪い人物だと非難しないように」と (10-1)。

(b) フィッツパトリック夫人とソフィアが思い出話をしている場面で夫人は言う。

「私のソフィア。あなた自身は私の現在の立場を逆に考えているでしょう。だって私の不運のためにあなたがためいきを何度もついたり、涙を沢山流さないのなら、あの (14歳の頃の) やさしい心はずいぶん変わってしまったからなのよ」と (11-4)。

(c) オナー夫人とソフィアが泊まっている宿屋で騒動が起るが、宿屋の主人がソフィアのことを売春婦といったのに夫人は怒る。そしてその怒りの原因を作者は述べる。

ところでオナー夫人は不運にもこの液体の火 (パンチ) を沢山のどに流しこんだので、その煙が頭蓋骨に登り始めて、理性の眼を盲目にした。その間、胃から出て来る火そのものが容易に心に到達して、そこでプライドの上品な激情に火をつけたのである (11-8)。

(d) 疑いについて作者は次のように述べる。

疑いにはふたつの程度があるように思われる。最初のを心から引き出したい。(中略) 悪い徴候が観察者の心から始まるように、悪は観察される者の心の中にもぐりこんで行く

(11-10)。

(e)上記と同じ章で、

悪はいつも悪い心から始まるのではないかと私は恐れる、というのは上に述べたいろいろな理由と、更にひとつの理由、即ち悪はよい心の特質では決してないということを私は知っているからである (11-10)。

(f)ジョーンズ氏と仲間のパートリッジがウェスタン郷土の出発に数分遅れて宿屋をあとにし、同じ道を歩いていた、というのは宿屋の主人の話でこの時間に馬をつかまえることができなかったからである。この時

二人は重苦しい心 (気持) で歩いていた。

それぞれ理由は違っていたが (12-3)。

(g)ジョーンズとパートリッジが旅をつづけていると、ドラムの音が聞こえたので、パートリッジは恐怖心を抱いたが、ジョーンズがこちらには来ないだろうと言うと、パートリッジは少し安心して、

彼のリーダー (ジョーンズ) について行ったが、彼の心 (心臓) は時を打っていた (12-5)。

(h)ジョーンズとパートリッジがソフィアを追いかけて道を急いでいた時、大雨に出会ってたまたま近くにあった飲み屋にはいった。そしてその台所にいた男の子がソフィアを送って行ったということがわかった。その時のジョーンズはソフィアについて非常に微妙であったので、沢山人がいる前で彼女の名前を言いたくなかった。とは言っても、

彼は言わば心が一杯になっていたので、皆の前で乾杯としてソフィアの名前を言ってしまったのだ (12-8)。

(i)愚かで悪い人についての作者の考え。

愚かで悪い人は、男の性格は美德のためよりもむしろ事件のためにあると自分自身の心に言い聞かせることによって、悪徳の中で自分を慰めるのかも知れない (12-8)。

(j)ブリフィル氏についてのジョーンズの考え。

「彼が私に抱いている疑いは彼自身の心の卑しさから起るように、彼の疑いが私に対する卑しさを引き起こしたのである」(12-10)。

(k)仮面舞踏会でのフィッツパトリック夫人とジョーンズの会話。

「あなたに約束します。あなたが彼女 (ソフィア) を誘惑して破滅に追いやるほど彼女の敵であっても、彼女は自分の破滅に同意するほど気は狂っていません」

「ああ、奥さま、あなたが私をソフィアの敵と呼ぶなんて私の心をほとんど知らないんです」(13-7)。

(l) ジョーンズとソフィアの突然の出会いの場面。

ソフィアはこの間^{かん}ふるえて立っていた。彼女の顔は雪より白く、心はどきどきしていた。ジョーンズがアップトンでの事件の弁解をして、私の心はあなたにそむいたことは決してなかったし、アップトンの女性は私の心の中では真面目な愛の対象ではなかったと言う。これを聞いて、ソフィアは心の中で喜んでいた (13-11)。

この章はジョーンズとソフィアの文字通り「心」の描写である。

(m) ナイティンゲールと叔父が話している場面。

「もし私が若い女の子をがっかりさせたら、彼女の死がその結果になるでしょうし、私自身を彼女の殺人者として見なすことになるでしょう。いや最も残酷な方法によって彼女の心をこわすことによって殺人者になるでしょう」「彼女の心をこわすって！ いやちがう、ジャック、女の心はそんなにすぐにはこわれない、女の心は頑丈なんだ、女の心は頑丈なんだ」(14-9)。

以上心 (heart, hearts) について見て来たが、心については以下5通りに分類できる。

まず、「私の心」「あなたの心」「彼の心」「彼女の心」「彼らの心」のように mind の場合と同じである。

次に、心を修飾する形容詞はよい意味では「優しい」だけで、悪い意味では「悪い」「重い」「邪悪な」「無防備の」「こわれつつある」「小さな」「可哀そうな」など。

3番目に、「心の率直さ」「心の卑しさ」「心の性悪あるいは冷たさ」「心のあふれ」のような心の中の描写。

4番目に、“heart” と対に使う “head” の例。この場合の “heart” は「感情」「head” は「理知」の意味に使われる。

最後に、文字通り「心臓」の例などがある。

日本語では「心」と言えばひとつの表現しかないが、英語では前項の “mind” と本項の “heart” がある。“mind” は身体と区別して思考・意志などの働きをする「心」で、“heart” は感情・情緒を意味する「心」である。日本語の「心」より英語の「心」(mind, heart) の方が多いし、意味が広いし、用法が複雑である。

(4) 愛 (love)

(a) ソフィアとオナーが立ち寄った宿屋でお上がジョーンズについてしゃべる場面で、

ソフィアは彼の振舞いをあまり不利な見方で見なかったし、彼の愛の激しい喜び（お上はあらゆる状況を誇張したように喜びも誇張したが、その喜び）に恐らく満足していたし、彼の激しい感情の法外さ、いやむしろほとぼしり全部を彼の心の率直さのせいにした（10-9）。

(b) 上記と同じ場面で

ソフィアは希望と恐怖、父に対する義務と愛、ブリフィルに対する憎しみ、同情、ジョーンズに対する彼女の愛（この最後のものを父、叔母、その他の人々の振舞いが燃やした）。これらのものの間で非常に悩んでいたのもので、彼女の心は混乱した状態だった（10-9）。

(c) フィッツパトリック夫人がソフィアに思い出話をしている場面で夫人は言う。

「彼（フィッツパトリック）はそれからいろいろ優しい表現を使って、優しく愛撫して、愛の激しい言明を何度もしてから話をおえました」と（11-5）。

(d) フィッツパトリック夫人がソフィアに彼女の夫のことを話す場面で、

「もし私に今愛のきらめきが少しでも残っていたら、私の彼に対する好みに彼がまた火をつけたかも知れません」に続く言葉。「たとえ憎しみが軽蔑につづいても、恐らく軽蔑を負かしても、愛はできないと信じる」と夫人は言う。「実態、愛という激しい感情はあまりにも落着かないので、愛が愛の対象から受ける満足なしにいつまでも満足しておれない」と（11-7）。

(e) ジョーンズとパートリッジがジプシーの納屋からコヴェントリーへ向けて旅を始めたが、

途中立ち寄った鍛冶屋でパートリッジがジョーンズに向かって熱弁をふるう。

「もし男性が若い女性にふさわしいとすれば、あなたは若いウェスタン嬢にふさわしいのです。というのはある男性があなたのようにほかの食物を食べないで愛を食べて生きるにはどんなに大量の愛を必要とするかと思うからです。あなたと一緒にいた24時間内に30回も食べたのは確かですが、もうほとんど空腹です。というのは旅ほど人を空腹にさせるものはないから。特にこんなに寒い冷え冷えする天候の中では。でもどうしてかわらないのですか。あなたは見たところ完璧によい健康状態であり、あなたの人生で今ほど立派で新鮮に見えたことはありません。あなたが食べて生きているのは確かに愛に違いありません」と(12-13)。

(f)仮面舞踏会でジョーンズとフィッツパトリック夫人がソフィアについて話をしている時、ジョーンズは言う。

「私の(ソフィアに対する)愛は愛の対象にとって最もいとしいものを犠牲にして愛そのものの満足を求めるそんな下品なものではありません。私は私のソフィアを所有するために、ソフィア自身を除いてあらゆるものを犠牲にします」と(13-7)。

(g)ジョーンズ氏がベラストン夫人と会う予定だった部屋で彼が待っていると夫人ではなく、ソフィアがはいて来る。ソフィアは考えごとをしていてすぐには気づかなかったが、グラスの中の自分の美しい顔を見たあと、動かないで立っている彫像のようなジョーンズに気づく。あまりに突然だったので、大きな叫び声をあげて、気絶して倒れそうになるところをジョーンズの腕にだきかかえられる。次に作者は述べる。

この恋人たちの顔つきや考えを絵にかくことは私の力の及ばないところである。二人の感情はお互の沈黙から判断すると、言葉に表されないものだったので、私もその感情を表現できないし、不運なことに、私の読者のほとんどが、二人の恋人の心の中にその時起ったことを、読者の心によって感じるのに十分恋愛の経験がないということである(13-11)。

英語の(love)には日本語の「愛」「恋」「恋愛」という意味があるが、それぞれ定義するとすれば、愛とは心の中にある根本的な感情のひとつで絶対的でなく相対的感情(1)、恋とは特に男女の間の独占的で二人だけの強い感情(2)、恋愛とは愛と恋を一緒にした恋よりも一般的な男女の強い感情(3)とでも定義したらどうだろうか。この定義から実例を見ると、(a)のジョーンズのソフィアへの愛、(b)のソフィアのジョーンズに対する愛、(f)のジョーンズのソフィアに対する愛はすべて(3)にあてはまるし、(b)のソフィアの父に対する愛と(c)のフィッツパトリック氏の妻への愛と(d)の夫人の愛と一般的な愛は(1)にあてはまるが、(e)のジョーンズが食べて生きる愛は比喩的であるし、(g)の恋愛の中味は作者も言っているように容易に表現できない不思議で深遠な感情である。

4. 格言またはそれに類似した表現

(a)ある宿屋の台所にいる若いレディーの魅力について作者は述べる。

実に完璧な美しさの中には誰もほとんど耐えられない力がある。というのは宿屋のお上は夕食を断られたのにはいい気はしなかったが、こんなに美しい女性を見たことがないと断言した

から (10-3)。

(b)上記と同じ宿屋でオーナー夫人に向ってパートリッジが言う言葉。

理性的な男性には時を移さず女は一人で十分である (10-5)。

(c)上記と同じ宿屋の一室でジョーンズがパートリッジを呼んで次のように言う。

「古い諺で真実の諺がある。賢い人は愚か者から時々忠告を学ぶかも知れない」(10-6)。

(d)上記と同じ場面でパートリッジが言う。

「人は誰でも一度は死ななければならない」(10-6)。

(e)ウェスタン家の応接間でウェスタン氏とウェスタン夫人がソフィアのしつけについて話しをしている場面で夫人は言う。

「イギリスの女はチェルケス地方の奴隷のように取り扱ってはいけない。私たちは世間の保護を受けているし、優しい手段によってのみものになるのであって、いじめられたり、いやな思いをさせられたり、たたかれて同意することはない」と (10-8)。

(f)ソフィアが馬に乗っている場面で、

(女性の声だけでなく) いろいろな魅力は年老いた雌馬でもじっと立たせておかないで速足で走らせる (10-9)。

(g)悪徳は中傷する者ほど無気力な奴隷を持たない、社会は彼ほど憎むべき害虫を作り出さない、悪魔は自分に価値のない客を受け入れることはできない、恐らく彼に歓迎されない者を受け入れることはできない (11-1)。

(h)中傷は刀より残酷な武器である。中傷が与える傷はいつも治療できない (11-1)。

(i)実際に、悪意をもってあるいは理由もなくある本を非難することは少なくとも非常にたちの悪い仕事であり、不機嫌ながみがみ言う批評家は悪人ではないか (11-1)。

(j)どんな本もほかの方法で (真の批評家の判断によって) 構成されることはできない (11-1)。

(k)ソフィアが泊った宿屋の主人は知恵のある男だったので、彼に関連して作者は述べる。

人は自分にわからないことを奇妙に崇拜する傾向がある (11-2)。

(l)フィッツパトリック夫人はソフィアに思い出話を次のように始める。

「不幸な人が自分にとって一番楽しかった人生のある時期を思い出す時、秘かに懸念を感じるのが自然である。過去の楽しみの思い出は、別れた友に対して抱くように、ある種の優しい悲しみに私達に感動を与えるし、両方の考えが私たちの想像の中でよく現われるものである」(11-4)。

(m)上記と同じ場面で、

「あどけなさ若さと美しさはもっと幸運にめぐり合う価値がある」(11-4)。

(n)上記と同じ場面で、

「私たち (女性) は男性の中で一番賢くて一番偉い人と同じくらいの理解力を持っているが、一番愚かな男性を仲間に寵児にしばしば選ぶ。愚か者によってだめにされたセンスのある女性の数を考えると最高に憤りを感じる」(11-4)。

(o)上記と同じ場面で、

「どんな生活状態にあっても、自分を支え慰めてくれる快活で気立てのよい仲間を持つ女性
はしあわせである」(11-5)。

(p)上記と同じ場面で、
女性が世間的な意味で不用意な結婚をする時、即ち、女性が金銭的利害と全く関係がない時、
女は男に対して何らかの好みと愛情を必ず持たなければならない」(11-5)。

(q)上記と同じ場面で、
「軽蔑は愛情を全く根こそぎにするものである」(11-5)。

(r)上記と同じ場面で、
「女性は自分の好きな人の愚かさに対してたくさんの言訳をそれとなく言うものである。快
活さと育ちのよさの偽装を通して愚か者を識別するには非常に看破する眼が必要である」
(11-5)。

(s)上記と同じ場面で、
「人は抽象的な思考の中でいろいろな観念の連鎖を失いがちである」(これはフィッツパト
リック夫人によるとジョン・ロック) (11-7)。

(t)上記と同じ場面で、
「女性は心を処理する所に自分の財産をいつもあずけるべきである」(これはフィッツパト
リック夫人の変わらぬ格言である) (11-7)。

(u)上記と同じ場面で、フィッツパトリック夫人がソフィアに言う。
「あなたが結婚する時、決して美德を期待してはいけません。というのはもし期待したら、
あなたは確かに騙されます」と (11-8)。

(v)ウェスタン夫人がフィッツパトリック夫人とソフィアにいつもくりかえしていた格言。
結婚の縁組がこわれて夫と妻の戦いが宣言される時はいつでも、妻はどんな条件でも自分自
身のために不利な約束をすることはできない (11-10)。

(w)現代作家における盗作などについて作者が述べる文の中で、 私たち現代人と古代人の
関係は貧乏人と金持ちの関係である (12-1)。

ここで言う貧乏人は英語では群衆 (mob) このことである。

(x)ついにもう一度わが主人公に私たちは帰って来たという書き出しで始まる章の中の一文。
たとえ私たちが美德をすべてもっているわけではなくても、用心深い性格の悪徳をすべてもっ
ているわけではない (12-3)。

(y)ジョーンズとパートリッジの会話の中でジョーンズが言う。
「戦いに出かける男たちにとって死ぬほど起りそうなものは何もない」と (12-3)。

(z)ジョーンズとパートリッジの会話の中でパートリッジが言う。
「悪いつき合いはよい習慣を台なしにする。(ここの「悪いつき合い」とはジョーンズが軍
隊にはいることを言う) すべての人間は死ななければならないということを私は知っているが、
それでも人は何年も生きるかも知れない。(中略) 確かに人の寿命が来る前に死を誘うことは
全く邪悪であり無礼であるように思われる」と (12-3)。

(aa)上記と同じ場面でパートリッジが言う。

「人は戦うこと（戦闘すること）なしに善人にはなれないということを私は教科書の中で一度も読んだことはないし、…聖書は戦闘に反対しているので、人はキリスト教徒の血を流しながら善良なキリスト教徒であると私を説得することは決してできない」と（12-3）。

このことを作者は立派な敬虔な教義と言う。

(bb)ジョーンズとパートリッジが歩いて次の十字路に来た時、ぼろを着た足の悪い男が物乞いをしたのに対して、パートリッジは激しくののしる。これに対してジョーンズがパートリッジにたずねる。

「口には沢山の慈善を持ち心には全然慈善を持たないことを恥ずかしく思わないか」と（12-3）。

(cc)ジョーンズとパートリッジが泊まっている宿屋のお上が財産の権利などについて話す場面で言う。

「Aの金もBの金も同然であるというのが私のいつもの格言です」と（12-7）。

(dd)ジョーンズとパートリッジがソフィアを追いかけて道を急いでいたら、激しい雨が襲って来た。たまたま飲み屋が見えたので中にはいる場面で作者は述べる。

飢えは敵である（もし実際にそう呼ぶとすれば）。これはフランス人の性質にあてはまるより、イギリス人の性質にあてはまる（12-8）。

(ee)ドウリング氏とジョーンズの職業観、人間観について作者は述べる。

職業に反対する私たちの偏見を個人生活に持ち込むこと、そしてある人についての私たちの考えをその人の職業についての私たちの意見から借りることほど正しくないことはない。習慣は、なるほど、職業が必要とし、結果的には習慣にする行為についての恐怖を小さくするが、その他のすべての例において、自然（または性質）はすべての職業の中で同じように作用する。否、人が普通の職業についている時、自然に（性質に）言わば休日を与える人については恐らくもっと強く作用するだろう。屠殺者が立派な馬の屠殺に良心の痛みを感じることを私は疑わないし、外科医は足を切り取ることに痛みを感じることはできないが、彼が痛風の発作のある人に同情するのを私は知っている（12-9）。

(ff)ジョーンズとパートリッジがコヴェントリーへ行く途中で鍛冶屋に立ち寄って二人が話しをしている場面でジョーンズが言う。

「人の物を見つけて、その持ち主を知っていながら、わざといつまでも持っている人は盗んだ場合も同じように絞首刑に価する」と。

これにたいしてパートリッジが言う。「どうやら私たちは皆生きて学ぶべきです。…子供はばあさんに卵の食べ方を教えるかも知れない」と（12-13）。

(gg)ジョーンズとパートリッジが鍛冶屋を出て、再びロンドンへの旅を始めた時、馬に乗った優しそうに見える男が近づいて来た。この時金と強盗のことが話題になってパートリッジが言う。

「私たちはみんなで4人いるし、お互いに協力すれば、イギリスの一番善良な男でも私たちから強盗はできない」と言ったのに続けて、「万一彼がピストルを持っていても、私たちの1人だけ殺すことができる。人は1度だけ死ぬことができる。それが慰めである。「人は1度だ

け死ぬことができる」と (12-14)。

(hh) 美德と愛について、更に愛と飢え、ばらと耳、バイオリンと匂いについての作者の考え方。

人は美德を食べて安楽に生活するかも知れないという古代の意見が悪名高い間違いであるなら、人は愛を食べて全く生きることができるというロマンス作家の立場も同様に偽りである。ばらは耳を喜ばすことはできないし、バイオリンは嗅覚を満足させることはできないように、愛は飢えを軽くすることはできない (13-6)。

(ii) この章の出だしで作者は述べる。

優雅なシャフツベリー郷はあまりに沢山真実を語りすぎることにどこかで反対しているし、これによって次のことがかなり推論される。即ちある場合には、嘘を言うことは赦されるだけでなく推薦できる (13-12)。

(jj) 当時の批評家が考えていた教義。

すべての種類の学問は作家にとって全く役に立たないし、想像力の自然の快活と活動への一種の足枷以外の何物でもない (14-1)。

(kk) 本と知識の関係について、更に絵画や知識などについて作者は述べる。

本は知識の不完全な考えを与えるし、舞台はよりよい考えを与えない。即ち読書で作られた立派な紳士はほとんどいつも学者ぶる者になり、知識で作られた紳士はしゃれた男になる (14-1)。

絵画は自然の女神を真似なければならない。世界の真実の知識は会話によってのみ得られるのであり、あらゆる階級の風俗は知るために見なければならない (14-1)。

(ll) ジョーンズがミラー夫人の身の上話を聞いている場面で作者は述べる。

正直な心の中にはある種の同情があり、その同情によって心はお互いに打ちとけた信頼を与える (14-5)。

(mm) ミラー婦人の娘のナンシーへのナイティンゲール氏のおわびの手紙の中で、

「破滅以外に何もこの手紙を書かせることができなかつた男を赦して忘れて下さい (14-6)。

(nn) この章の出しで作者は述べる。

私たちが他人に与える善か悪かはしばしば私たち自身にはねかえる (14-7)。

(oo) ナイティンゲールと叔父が話をしている場面で叔父が言う。

「名誉は世間が作り出すものであり、世間は創造者の名誉への力を持っており、好きなように名誉を支配し指図するかも知れない」と (14-9)。

5. 最上級表現とそのコンテクスト(1)

(a) 作家と批評家の相違についてフィールディングは述べる。

私たちがここで使った隠喩 (allusion, metaphor) はこの場合無限に大きすぎると認めなければならないが、実に一流の作家と最低の批評家との間の相違を表すのに全く十分な作品はこれ以外にない (10-1)。

(b)真夜中にある宿屋に妻に逃げられた紳士がやって来て女中に話しかけている場面で紳士が言う。

「もし彼女が先に出かけていたら、どっちに行けばいいか教えてくれ、お願いだ。おまえをイギリスで一番金持ちの貧しい女にしてやるから」と(10-2)。

(c)上記と同じ宿屋で紳士が女中にある部屋に案内させるが、ドアがしまっていたので、突き破って中にはいったところ、われらの主人公ジョーンズがいて、彼と紳士のなぐり合いが始まる。

それを見たウォーターズ夫人が最も激しく叫び始める。「サツジーン! ゴートー!」もっとひんぱんに「レイプ!」と(10-2)。

(d)上記と同じ宿屋の台所にお上と女中とパートリッジがいる時、二人の若い女性はいって来た。

パートリッジはそのうちの一人のドレスの素晴らしさに最高の畏敬の念と驚きをもって心を打たれた。実に彼女はこれ以上に尊敬すべきすばらしいタイトルを持っていた。というのは彼女は世界で一番美しい人間のひとりだったから(10-3)。

(e)上記と同じ場面で

パートリッジは彼女の顔について一番突飛なほめ言葉を発した(10-3)。

(f)上記と同じ宿屋にジョーンズがいることを知ったオーナー夫人はすぐソフィアに知らせるが、ソフィアがジョーンズに今すぐ会いたいと言うので、オーナー夫人はパートリッジに頼んでジョーンズを起こすように頼む。しかしパートリッジはこんなに早くジョーンズを起こすと彼は怒るといって引き受けようとしな。その時オーナー夫人は言う。

「ジョーンズが理由を知ったら、怒るところかきと最高に喜びます」と(10-5)。

(g)上記と同じ宿屋でオーナー夫人がパートリッジからジョーンズはある女の子と一緒に寝ているというのを知らされて、ソフィアにこのことを知らせたあと、

オーナー夫人はモリー・シーグリムの話しをあばいて、ジョーンズがソフィア自身を以前すてたことに対して最も悪意にみちた言い回しをした(10-5)。

(h)上記と同じ宿屋をジョーンズは後にするのだが、愛らしいソフィアの追求を二度とあきらめない決心をする。

ただウォーターズ夫人のことを考えるとむかつく、というのはソフィアとの一番しあわせな出会いに失敗する原因が彼女だったからである。今や彼はソフィアに対して永遠の節操を誓っている(10-7)。

(i)ソフィアとオーナーが立寄った宿屋にジョーンズがいたということをお上がソフィアに話す場面でお上は言う。

「今まで見たうちで一番美しい(loveliest)カップルです。実にあなたは世界で一番すてきな(finest)レディだと彼が私に言いました」と(10-9)。

(j)中傷や中傷するものについて述べた文につづけて作者は述べる。

実に(中傷する者を)殺すひとつの方法、しかもすべての中で最も下品で最も呪うべきものがあるが、それはここでは否認される悪への正確な類推を持っている。それは毒であり、非常

に下品で非常に恐い復讐の手段であるので、それは法律によってかつて賢明にもすべての殺人から区別された(11-1)。

(k)ソフィアとオナーとガイドがセヴァンを通り過ぎた時、後から数頭の馬が追いかけて来たので、ソフィアは恐れていたが、

女の声だったのですぐ安心した。その声は最も優しく最も丁寧に挨拶した。この挨拶にソフィアも同じように丁寧にしかも彼女にとって最高に満足して答えた(11-2)。

(l)上記と同じ場面でソフィアと追いついた女性は偶然にも自己紹介をすることになるが、ソフィアの相手はハリエットと言って今はフィッツパトリック夫人になっているソフィアの従姉であった。

この二人の従姉妹がこの出会いで抱いた驚きと喜びは非常に大きかったので(というのは二人は以前最も親しい間柄だったし、叔母のウェスタンと一緒に長いこと生活していたから)お互いに自然に質問をする前に、即ちどこへ行くのかきく前に二人の間で交わされた喜びを半分も話すことはできない(11-2)。

(m)ソフィアとフィッツパトリック夫人がロンドンに行く途中の宿屋にいる時、ソフィアの声や振舞いや態度に魅力があったので、彼女はお上を最高にうっとりさせた(11-3)。

(n)フィッツパトリック夫人がソフィアに思い出話をする場面で夫人は言う。

「二人がウェスタンおばさんの世話になって一緒に過ごしたあの日々(私の生涯で一番しあわせで遠い日々)のことを悲しみなしには思い出せない。」…ある舞踏会を不運と考えた時、私が知っている最大の不運であった時、私の立場がどんなにしあわせであったか」と(11-4)。

(o)上記と同じ場面で夫人は言う。

「フィッツパトリック氏は田舎のダンスでも、私の相手ではなく真面目くさっていて、私に近づいた瞬間最も優しい顔つきをしていました」と(11-4)。

(p)上記と同じ場面で、

「私は手紙をテーブルに投げつけて、私に発見できる一番苦々しい言葉で彼をとがめ始めた。罪の深さが、恥が、用心深さが彼をおさえたかどうかはわからないけど、彼は一番感情的な男なのに、この時は全然怒らなかった。反対に一番優しい手段で私をなだめようとした」と(11-5)。

(q)上記と同じ場面で

「最も意図されない言葉、最も偶然の顔つき、最も少ない親しみ、最も無邪気な自由はある人々によって私の知らないものへ誤って解釈され拡大されるものである」と(11-7)。

(r)上記と同じ場面で

「私の知合いの中で最も愚かな男が最も悪い夫であるし、センスのある人はそれにふさわしい妻に対して滅多に悪くは振舞わない」と(11-7)。

(s)オナー夫人とソフィアが泊まっている宿屋で騒動が起るが、宿屋の主人がソフィアのことを売春婦と言ったのに夫人が怒って言う。

「実際とは違う最もつまらない言葉を言うふりをあえてするどんな悪者の目玉もつかみ出してやる。私が仕えているどんなレディーもでその性格について最も小さな悪口も許さない」と

(11-8)。

(t)旅行者が旅をする時受ける自然 (Nature) と芸術 (人工) (Art) についての擬人的表現。自然は彼女の最も豊かな装いで現われ、芸術は最も慎しみ深い簡潔さで装って、彼女の優しい女性 (自然) につきそう。ここで自然は彼女がこの世に惜しみもなく与えた、最も選り抜かれた宝物を実際にあふれ出させ、ここで人間の自然 (人間性、芸術) は自然にはどうしても及ばないある物を読者にプレゼントするのである (11-9)。

(u)上記と同じ場面で

(金のことを考えている商売人、賢明な裁判官、威厳のある医者、温かく着こんだ牧畜業者がそれぞれの旅を楽しむように) 同じ楽しい気持でよい騎手 (馬で旅をする人) はあの建築家のあの美しい建物の最も誇り高い自慢の物を概観するのである (11-9)。

(v)疑いにはふたつの程度があると作者が述べてところで、

私は最初のを心の中から引き出したい、というのは心が識別する極端な速度 (extreme velocity) が何か以前の内的衝動を意味するように思われるし、むしろこの最上級 (this superative degree) (最も極端な速度 the extremest velocity) がそれ自身の対象を形作るからであるし、存在しないもの、実際に存在する以上の沢山のものをいつも見るからである (11-10)。

(w)ソフィアがロンドンにきたのはバラストン夫人の家を避難所にするために来たと言った時、

バラストン夫人は最高に満足して自分にできるだけの保護をすると約束した (11-10)。

(x)現代作家における盗作と合法的賞品について作者が述べる書き出しの文。

この強大な作品の中で一番よい古代の作家から原文を引用しないで、あるいは文を借りた本を全然注目しないで私がしばしば翻訳してきたことに学のある読者は気づいたに違いない (12-1)。

(y)上記と同じ文中で

古代人はパルナッソスの豊かな共有地として考えられるかも知れないし、そこに最も小さな借地を持っている人でも自分の詩心を太らせる自由な権利を持っている (12-1)。

(z)上記の同じ文中で

お互いから盗むことは実に高度の犯罪行為であり不法である。というのはこれは厳密には貧乏人 (時々恐らく私達より貧しい人々) をだますことであり、あるいは最も侮辱的な色のもとにおくと、病院を強奪すること (乗っ取ること) である。従って最も厳密に検証すれば、私自身の良心はそのような憐むべき盗みを私の責任にすることはできない (12-1)。

(aa)ウェスタン氏はサプル牧師の説得で郷里へ帰ることになるが、宿屋を出る時、

娘に対して彼が発明できる最も苦々しい呪いの言葉を次々と吐き出した (12-3)。

(bb)ついにもう一度わが主人公に私たちは帰って来た、という書き出しで始まる章で作者は言う。

現在の可哀そうなジョーンズの状況ほど哀れな状況を考えることは容易ではないが、私たちは彼のところに帰り、彼がまるで幸運の最も輝かしい光の中で戯れているかのように真面目につき合うことにする (12-3)。

(cc)上記と同じ章でジョーンズとパートリッジは沈黙して道を歩いていたが、ジョーンズの方から沈黙を破ったので、

ジョーンズが狂っているのではないかというパートリッジの恐怖は最も絶対的な約束によってかなり取り除かれたので、パートリッジは再び彼の舌から馬勒をはずした(12-3)。

(dd)ジョーンズとパートリッジが出会った乞食に向かってジョーンズが言う。

「ほら、君こそ一番しあわせな男だ。君の名前を天使の次に書いておく」と(12-4)。

(ee)ジョーンズとパートリッジが立ち寄った宿屋で人形芝居を見ることになった。というのは、

芝居の親方が彼の人形は世界で一番すばらしい人形で、イギリスのあらゆる町で大きな満足を与えてきたと言ったから(12-5)。

(ff)人形芝居の親方とジョーンズの会話を聞いていた人形使いがジョーンズの言葉に反発して言う。

「それはあなたの意見ですが、一番よい観客(審判員)はあなたと違うということを私は十分知っています」と(12-5)。

(gg)上記と同じ章で宿屋のお上が一騒動を起すが、

この事件ほど時宜に合わないで起ったものはないし、運命の女神の最も気まぐれな悪戯も可哀そうな親方を困らせる計略を工夫できなかった。その間彼は彼のショーによって教化されるよい教訓について意気揚々としゃべっていたのである(12-6)。

(hh)上記と同じ宿屋で収税吏がパートリッジをそそのかして、

もしパートリッジがジョーンズを何らかの方法で(オールワージー氏のもとへ)送り返すことができれば、最高の報酬を与えると約束した(12-7)。

(ii)上記と同じ宿屋でジョーンズが狂人扱いされたのに対して宿屋のお上は言う。

「顔つきが狂っているとか眼がどうだとかどうして言えるのですか。あれは私がこれまでに見た一番きれいな眼です。眼はもちろん顔も一番きれいです。非常に慎み深い礼儀正しい青年です」と(12-7)。

(jj)ジョーンズが宿屋で眠っていた時、外の騒ぎで眼をさました。それは人形芝居の親方がメリーアンドルーという人形使いをいじめているのだった。その時ジョーンズがとび起きて親方を取りおさえて騒ぎを止めた時、人形使いは言う。

「あなたはこの裏道で2、3日前すばらしい乗馬服を着たレディーから物を盗もうとしましたか。森に連れて行ってこの世で一番きれいなレディーから盗みたいと思いませんでしたか」と。

ジョーンズがこれを聞くとすぐ親方にメリーアンドルーを侮辱するのをやめさせたと同時に、忍耐の最も激しい命令をした(12-8)。

(kk)最低生活者と偉人を比較して作者は述べる。

最低生活には沢山方策があるが、偉人はしばしば詐欺の腕前を過大評価し、腕前の点では最低の人種のあるものがしばしば上に行くということを私たちは観察せざるを得ないと(12-9)。

(ll) ジョーンズとパートリッジと案内の少年が道に迷った時のパートリッジの思い出話。

「ある蹄鉄屋が、老女が悪魔と約束した時間がいつすぎるかたずねて（老女を）怒らしたので、丁度その日から3ヵ月しかないうちに彼の一番よい牛がおぼれ死んでしまった。彼女はそれだけに満足しないで、その後しばらくして彼は一番よい飲み物の樽を失ってしまった。というのはその老女が樽の栓を抜いて地下室一面にあふれさせたから」（12-11）。

(mm) ジョーンズとパートリッジと案内人があがりこんだジプシーの祝宴の様子。

ここにはベーコン、鶏肉、羊肉がふんだんにあり、それに対してそこにいる一人一人が、一番上手で一番親しいフランス人のコックでもできないぐらいにおいしい味つけをしていた（12-12）。

(nn) 上記と同じ場面で

（ジプシーの）王は彼の（ジョーンズとの）親交のために食物の中で一番選り抜かれたものをテーブルに出すように命令した（12-12）。

(oo) ジプシーの王とジョーンズが話をしていた場面で、人類と一人の支配者、絶対君主と社会の関係について作者は述べる。

その当時知られている世界の最大の部分が一人の主人の支配下にあった時ほど、人類がしあわせだったことはない。（中略）ある絶対君主がこのように立派な稀な資格を全部持っていて、社会に最大の善を与えることができると万一認められるならば、逆に、絶対権力は、そのような資格を全部欠いている人の手に帰属すると、一定の悪を伴うようであるということが確かにもとめられなければならない（12-12）。

(pp) 上記と同じ章の最後で作者は述べる。

ジプシーは彼らの間では偽りの名誉を持たないし、恥をこの世で最も悲しむべき処刑と見なすということを私たちは記憶していなければならない（12-12）。

(qq) この章の出だしの部分で作者は述べる。

聖職者が邪悪にもあるいは厚かましく説教する最も有毒な教義の使用に私たちの物語が利用されないために、自由の正直な愛好家は前章の終りでのあの長い脱線を赦すことを私は疑わない（12-13）。

(rr) ジョーンズとパートリッジがコヴェントリーへ行く途中で鍛冶屋に立ち寄って、二人が金のことで話をしている場面でジョーンズが言う。

「ロンドンという所は金を持たないで滞在しているには正に最悪の所だと聞いているのだが…」と（12-13）。

(ss) 上記と同じ場面でパートリッジの言葉にジョーンズは気分を害するが、パートリッジが謝ったので、ジョーンズは彼と握手をして、

最も優しい態度で20もの親切なことを言った（12-13）。

(tt) ジョーンズとパートリッジが鍛冶屋を出て再びロンドンへの旅を始めた時、馬に乗った優しそうに見える男が近づいて来た。この時金と強盗のことが話題になってパートリッジが言う。

「私たちはみんなで4人いるし、お互いに協力すれば、イギリスの一番善良な男でも私たち

から強盗はできない…」と (12-13)。

(uu)上記と同じ場面で優しそうに見えた男はジョーンズに対してピストル強盗を働くが、ジョーンズに説き伏せられてしまう。強盗の原因は

子供が5人いるし、妻は6人目のお産をしたばかりの最大の生活苦、最大の貧困と悲惨であった (12-14)。

(vv)上記の場面から少し状況は変って、ジョーンズとパートリッジが追いはぎについて話す場面でジョーンズは言う。

「最高の罪が強盗以上にならない者、人に対する残酷や侮辱の罪を決して犯さない者、これは、わが国の名誉にかけて言わなければならないが、イギリスの強盗と外国の強盗と区別するひとつの状況である。というのは殺人は、特にほとんど区別できないぐらい強盗にありそうなことであるから」と (12-14)。

(ww)この章の出だしの描写。

ジョーンズ氏は終日あるドアの見える範囲内で歩いた。その1日は1年全体の中で最も短い1日であったが、彼にとっては最も長い1日であった (13-4)。

(xx)ジョーンズがロンドンで今お世話になっている家の夫人は牧師の未亡人で、年齢は50歳に近く、あらゆる魅力を身につけている。娘が二人いて上のナンシーは17歳、下のベティーは10歳である。

その未亡人は世界で一番無邪気で、一番快活な女性であり、すべての願いの中で一番しあわせと呼ばれる(人を)喜ばす願いを絶えず持っており、彼女の力は非常に小さいが、心の中では一番温い友人の一人であり、非常に愛情のある妻であったし、非常に情深く優しい母である (13-5)。

(yy)ジョーンズがロンドンに滞在した時泊まっていた家の女主人の言葉。

最も少なく話す紳士は最も沢山感じることができる (13-6)。

(zz)仮面舞踏会で知り合った仮面をつけた女性に、

ジョーンズはマスクを手にとってソフィアがどこにいるか知らせるように最も熱心な態度で頼み始めた (13-7)。

(aaa)上記と同じ場面で彼女が言う。

「誰かを破滅させることは敵対行為である」と。これに対してジョーンズは「ソフィアに対してそんな意図は全然ないし、彼女を犠牲にして自分の願いを果すぐらいだったら、最も激烈な死を苦しむ方がよい」と言う (13-7)。

(bbb)ポー普氏が言う女性について作者は述べる。

形式と気取りから成る女性は全然性格を持たないし、少なくとも外に現れるものが何もない。私が敢えて言いたいのは最も贅沢な人生は最も退屈な人生であり、ほとんどユーモアとか娯楽を与えないということである (14-1)。

(ccc)ミラー夫人の夫についての思い出話。

私の父が死んだあと、私は男の中の一番善良な人と完璧にしあわせな生活を5年間しました。が残酷な運命が私たちを引き離してしまいました。私から一番親切な夫を、娘たちから一番優

しい親を奪ってしまいました (14-5),

(ddd)オールワージー氏のミラー夫人への手紙の中で

奥さま、奥さまの最近の悲しみに心から同情致します。奥さま自身の良識と男性の中で最も価値ある男性（ミラー夫人の夫）から奥さまが学んだすぐれた教訓のために私のどんな忠告よりもその悲しみによく耐えることができるでしょう。奥さまは母親の中で一番優しい母親であると私は聞いていますが、悲しみのあまり可哀相な子供さんたちへのつとめをわすれてしまわれるのではないかと心配しております (14-5)。

(eee)ジョーンズとナイティンゲールの父が話している場面でジョーンズは言う。

「あなたの息子さんは私が最高に尊敬している人です。いや、私があなたに抱いている尊敬の念を表現するのは容易ではありません。というのはあなたは息子さんのためにこんな結婚を、地上で一番しあわせな男にする女を、準備するのに非常に気前がよく、非常に善良で、非常に親切で、非常に寛大だからです」と (14-8)。

(fff)ナイティンゲールが叔父に話しかける場面で彼は言う。

「あなたはいつも私にとって一番善良で一番親切な叔父さんでしたし、この結婚を許すのにこんなに比べものにならないぐらいの善良さを示したので、もし私が何かで叔父さんをだまそうとしたら、私は私自身を決して赦しません」と (14-9)。

(ggg)全員がそろった場面で

ジョーンズはこの場面に全然関心はなかったが、一番沢山のものを見た (14-10)。

6. 最上級表現とそのコンテクスト(2)

前項の最上級表現は形容詞または副詞の最上級であるが、この項では utmost (最高の、最大の) の形容詞の例を紹介する。

(a)ある宿屋の一室での大騒動の原因は侵入者が間違っただとわかった時、ウォーターズ夫人がまたタスケター！ ゴーカン！ サツジーン！ ゴーカン！ と叫んだので、今度は宿屋のお上さんが部屋にはいって来るが、その時、

ウォーターズ夫人は最大の敵意をもってお上さんに襲いかかって言う。「私自身はまじめな宿屋にいるものと思っていたのに、売春宿ではなくて…」と (10-2)。

(b)ウェスタン家でブリフィル氏とソフィアが結婚式をあげる日にソフィアが見つからないので、ウェスタン氏がさがしに行くが見つからない。応接間に帰ってみると、ウェスタン夫人とブリフィル氏がいるので、

表情に最高の落胆を表して、大きな椅子にどっと坐りこんでしまう (10-8)。

(c)フィッツパトリック夫人の思い出話を聞き終わったソフィアは宿屋の主人の話しを勘違いして、自分が父に知られて追いつかれたと決めこんでしまう。

彼女は今や最高の驚きでびっくりして、数分間話す力を奪われてしまう (11-6)。

(d)話はアップトンのウェスタン郷土に戻る。

宿屋の主人がウェスタン氏の娘ソフィアはセヴァン川を渡ったと話したので、ウェスタン氏

も同様に川を車と一緒に渡って、フルスピードで車を走らせた。万一ソフィアに追いついたら、最高の復讐をすると誓いながら (12-2)。

(e) ジョーンズが人形芝居の親方と人形使いのメリーアンドルーとの喧嘩の仲裁をしたあと、ジョーンズがメリーアンドルーを自分の部屋に連れて行ったらすぐ彼からソフィアの消息を聞いたので、彼がソフィアを見た場所にジョーンズを連れて行くように頼んだ。その時、

ジョーンズはパートリッジを連れて、最高の速さで出かけた (12-8)。

(f) 上記と同じ場面からソフィアが通りすぎた場所へ案内されたジョーンズは案内人になっぶりお礼をして、

再び最大の熱心さで突き進んで行った (12-8)。

(g) ジョーンズとパートリッジと案内の少年が道に迷ったが、旅を続けていると遠くに明かりが見え、どんちゃん騒ぎが聞こえて来た。そこは大きな納屋で、そこに着いてジョーンズがコヴェントリーへの道をきくと、雨がやむまで中にはいって一緒に飲めと言われてその通りすることになる。

これは善意で受け入れてもらったのである。というのはパートリッジはその人々を化け物と考えていたので、その情け深さを信頼するというよりむしろ天候の最高のひどさに屈したからである (12-12)。

(h) 上記と同じ場面で

ここに一緒にいる人たちはこんなにしあわせな人はいないと考えられるぐらいだった。実に最高の上機嫌が一人一人の顔色に表われていた。そうかといってその祝宴が秩序と礼儀を全く欠いているわけではなかった (12-12)。

以上2種類の最上級表現を見て来たが、最上級表現は作者が最も強調したい事、物、人物の性格、場面、状況など、あるいは作者が登場人物の感情の高まりを表現するものであり、人物や場면을、よい意味でも悪い意味でも、最高最大に描写するものであり、人間の感情の最大から最低まで、場面や状況の最善から最悪まで、人間の呼吸にも似た感情の起伏を印象的に劇的に表現するものである。上記5. の(v)で作者が「最上級」(the superlative degree) という語を使っているのを見ると、この表現に深い関心があったと思われる。

形容詞のよい意味の“best”や“happiest”などの用例は54、悪い意味の“worst”や“lowest”などの用例は25、副詞のよい意味では13例が多いのは、言うまでもなく、小説の内容が真善美の追究であるし、真善美を強調するための偽悪醜の強調であるからである。形容詞“utmost”の場合、次に来る名詞が「敵意」「落胆」など悪い意味の例が5例で、よい意味の「熱心さ」「上機嫌」などは3例である。

7. ま と め

今回は『トム・ジョーンズ』第10巻から第14巻までを取扱ったが、ジョーンズとソフィアの出会いには2回チャンスがあった。ただし、1回目はパートリッジの軽率な言動によってジョーンズとソフィアが会えなかったばかりか、ソフィアの気分を害し、ひいてはジョーンズ気分

までも害することになった（第10巻第5章）。

2回目のチャンスはある宿屋でジョーンズがベラストン夫人を待っている部屋に偶然ソフィアが跳びこんで来て、二人の久しぶりの再会になるが、ソフィアの気分はまだジョーンズに対して不愉快なままだだったので、初めのうちはソフィアは冷淡でそっけないが、ジョーンズの熱心なおわびと説得により、ソフィアもやっと気分をなおして、もとの二人の愛し合う関係になる（第18巻、第11章）。しかしこれ以後二人はまた会うチャンスはなかった。次回最終回の部分で二人の劇的な出会い、更にしあわせな終末を期待したい。

ところで、今回の第10巻から第14巻までの中で作者は重要なことを二つ言っている。

一つは、立派な、有用な、まれな教義を（読者または登場人物に）教え込むことがこの全作品の目的であり、普通の牧師がかれのテキストを各パラグラフの終りごとに繰り返して説教を終るように、（私が）しばしばこの教義を繰り返してこの小説の各ページを満たすことではないということ（第10巻、第5章）。

もう一つは、この小説の領域は喜劇であり、喜劇的な性質をもつそういう種類の小説であるということ（第13巻、第11章）。

以上、次回の最終回を期待しながらここでペンを置くことにする。

（1996年5月8日受理）